

医師の日常業務について

皆さまに当院の医師についてより一層のご理解をいただくため、各医師の日常業務をシリーズで紹介してまいります。

内田 尚仁 先生（内科）の一週間

日本人のがん罹患・死亡の約半数は、消化器がん（胃・大腸・肝臓・膵臓・胆道）が占めています。こうした病気を専門に診療する消化器内科の中でも、特に膵胆道疾患を専門としています。業務は大きく分けて、病棟管理、外来、検査・治療、そして救急当番の4つです。

病棟管理は入院中の患者様への診療です。具合が悪く緊急入院された方や、検査のために予定入院された方など、それぞれの患者様に応じた対応を行います。毎日回診を行い、また看護師から患者様の容態を聞き、必要に応じて点滴や内服薬をオーダーしたり、検査の予定を立てたりしています。

外来は水曜日午後の完全予約制専門外来と、木・金曜日午前の一般外来で構成されています。一般外来では、飛び込み新患の診療も行っています。飛び込み新患の場合、事前情報が全くないため、問診や診察に時間がかかることが多く、感覚としては救急外来に近いかもしれません。

月・火・水曜日の午前と、火・木・金曜日の午後には内視鏡を用いた検査・治療を行います。膵胆道疾患の精査には超音波内視鏡検査を実施します。この検査は胃カメラと同様に口から内視鏡を挿入し、超音波を利用して観察するため、より鮮明な画像が得られ、組織や臓器の評価に役立ちます。救急当番は月曜日の午後を担当しています。救急搬送される方は消化器疾患だけでなく、脳疾患や心疾患、呼吸器疾患の方も多くなっていますが、常に最善の医療を提供するよう努めています。

お身体で気になるところがございましたら、どうぞ気兼ねなくご相談ください。



宇野 浩司 先生（外科）の一週間

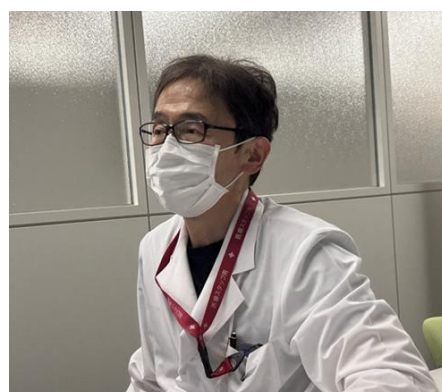
月曜日の午前中は外来診療です。朝から多くの患者様が訪れ、新しい患者様の診断や既存患者様のフォローアップを行い、必要に応じて手術のスケジュールを組みます。午後には、入院患者様の経過確認のほか、手術の準備や研究活動に時間を割きます。

火曜日は手術日です。予定されている手術の準備を行い、手術室に入ります。手術が終わると、患者様の経過を確認し、必要な処置を行います。また、手術のない日は救急のオンコール当番を行います。専門外の骨折やめまいなどについても積極的に受け入れ、初療の後、専門の先生に引き継ぐようにしています。水曜日は午前が外来診療、午後が手術の日です。集中力を保ちながらお一人お一人の診察を行い、診察が終われば、また気持ちを切り替えて手術室に入ります。手術においては、手技はもちろんのこと、患者様並びにご家族に説明を行い、安心してもらうことも重要な役割です。手術前・後には十分に時間を取り、必要に応じて手術の合間にも患者様の経過を分かりやすい言葉で説明しています。

木曜日は高松市内の病院で外勤を行い、同地の患者様にも医療を提供しています。

金曜日にも週の終わりに向けて、再び手術の日です。集中力を保ちながら一つ一つの手術をこなしていきます。手術後には、患者様の経過を確認し、必要な処置を行います。夕方には翌週のスケジュールの確認を行います。

休日にも入院患者様の経過を確認します。一方で自己研鑽のため研究活動や学会発表の準備、最新の医療技術について学ぶ時間を持ちます。また、家族との時間も大切にするようにしています。



東條 俊司 先生（泌尿器科）の一週間

火曜・金曜の午前中に泌尿器科一般診療を行っています。
火曜の午後は予約外来、月・水・金曜の午後は、検診で尿検査や前立腺腫瘍マーカーPSAに異常があった方の二次検診を行っています（当院検診センターでの予約が必要です）。

火曜の夕方、専門チーム医療として、入院患者さんの排尿ケアサポートを医師、看護師、理学療法士、作業療法士などの他職種と協力し、ミーティングや病棟回診をしております。



また、当院の訪問看護ステーション「たきのみや」看護師らと連携し、訪問診療を行っています。通院が困難な患者さんを訪問し、診察と治療をおこない、看護をされているご家族をお助けできますよう心がけております。

私自身が高齢者ではありますが、患者さん・ご家族に安心と喜びを少しでも提供できますよう精進してまいります。

濱谷 英幸 先生（救急科）の一週間

救急科というとどんなイメージをお持ちでしょうか。以前も書かせていただきましたが、大学病院などの大病院とする救急と地域病院とする救急とは大きく異なります。大病院での救急と言えば「最後の砦」と言ったイメージでしょうか。一方で、私たち滝宮総合病院のような中小規模病院で行う救急とは、大学病院のそれとはまた違った姿をしています。肺炎や腸炎、脳梗塞、圧迫骨折といった日常的によく耳にする病気を中心に、軽症から中等症、時には重症まで幅広い重症度の患者様を診ます。

このため、当院の救急科では、入院患者診療や救急外来での救急や対応以外にも、一般外来診療も行っていることが特徴です。火、水、金曜日の半日は一般外来として「咳がでる」「お腹が痛い」「動悸がする」「だるい」などなど訴える患者様を、総合診療という立ち位置で診療をしています。

救急医の中には、救急だけを専門にしているだけでなく、自分の得意分野を持って診療している医師も多いです。私の場合は循環器疾患であり心臓の専門的な診療も行っています。特に月曜日と木曜日午後は当院の循環器内科の先生たちと心臓カテーテルでの診断や治療を行っています。

上記以外の時間帯は救急車の対応が主となります。救急車できた患者様に処置をしながら診断をして、必要な対応を素早く行っていきます。これは皆さんのイメージ通りな姿ではないでしょうか。

滝宮総合病院の救急医はこんな日常を送っています。少しイメージがつかまりましたでしょうか？今後とも皆様のお役に立てる救急でありたいと思っております。何かお困りのことがあれば是非ご相談ください。

